**第1号議案**

**2019年度活動報告**

2020年に入り、世界中で新型コロナウイルス（COVID-19）の感染拡大による混乱が起きています。

SDGｓ=持続可能な開発目標は、グローバル経済による開発に対する警鐘でもありましたが、まさに今の状況は、世界中をいかに人とモノが移動しているかの証明にもなりました。そして世界中に蔓延しているこの病気でも、貧困が、手を洗う水の不足・マスクや消毒薬の不足・医療へのアクセスのしにくさなど安心への格差としてあらわれています。一方都市部でも、閉鎖になったとたん食物の確保が難しくなる、収入が得られず一気に生活が脅かされるなど、弱みがあらわになっています。

すでに後戻りできないグローバル経済社会の中で、持続可能な社会を作っていくには何をすべきか、改めて考えていかなければならない2019年度の締めくくりとなりました。

2019年度はWE21ジャパン（以下、WE21）にとっては大きな転換期となりました。

WE21ジャパン・グループ（以下、WE21グループ）の中で、WE21は、ビジョン・ミッションを同じくしながらも、社会に対する役割やそのための活動は独自のものを確立していく必要があります。今年度6回のWE21グループ会議での協議を経て、WE21は持続可能な社会を作るため、自ら考え、行動する市民が運営するWEショップを日本のモデルとし、その価値を伝え参加につなげること、同じく自ら社会を作り・変えようとするアジアの人々とつなげる中間支援組織の役割を担っていくことを明らかにしました。

そして、それをもとに2020年度からの三か年計画を策定しました。また、WE21の価値を改めて見直し広報につなげるため、Panasonic NPO/NGOサポートファンド for SDGs（以下パナソニック組織基盤強化助成金）を得て、1月から組織診断も始まっています。

今年度の活動を振り返ってみると、議論に議論を重ねた一年間だったと思います。これが来年度以降の基礎として新たな出発となることを願っています。

**■事業の活動内容**

**I　特定非営利活動に係る事業**

**1　社会を変えるための市民力を高める活動**

社会の課題を地球規模で考え、足元の地域社会を変えるための活動を進めます。WE21の事業から見えた課題について調査分析し提言活動を行い、市民が学びあい、育ち合う場を広げます。

【日時】通年

【場所】神奈川県内、及び近隣都県

【従事者人員】25人（理事、事務局、自主活動チーム）

【受益対象者】市民、WE21グループのメンバー

【支出】1,142,704円

**1－1　持続可能な環境の実現のための活動**

・持続可能な社会を作るための開発目標（SDGｓ）に関しては、民際協力一覧にてWE21の活動とWE21グループの民際協力事業をSDGsに関連付けて表しました。サマーカンファレンス「SDGs Park」（7/20-21）に参加し、WE21の活動のアピールを行いました。地域NPOの貧困なくそうキャンペーンをSDGsの開発目標に合わせて、ホームページ、Facebookにて広報しました。

・衣類のリユース・リサイクルの課題を解決するために調査計画を立てました。廃棄するのではなく、リユース・リサイクルを進めることの優位性をアピールできるようＣＯ2の削減、行政の取り組みなどを調査、提言します。

・持続可能な環境の必要性を知り、実践する人を増やすために、衣類のリユース、油電力、めぐりケータイ、羽毛製品回収を通じて、資源の循環の大切さを伝えました。

めぐりケータイは7地域が参加し、199個の携帯電話・小型家電を回収しました。また2地域にて

WE講座を行い、鉱山資源問題と鉱物資源循環の重要性を伝えました。

・フードバンクかながわと連携し、エコものセンターを活用したフードドライブを通じて、寄付文化や貧困に対する気づきの機会を作りました。参加地域　9ショップ

・JCSNフォーラムで学んだ羽毛回収事業について、羽毛の再利用の現状や回収に関しての学習会（9/19）を開催し、13地域19名の参加があり、羽毛回収事業に繋げました。

WE21への回収協力6地域　10ショップ　　　独自回収1地域　1ショップ

ネットワーク団体：JCSN(日本チャリティーショップ・ネットワーク）、ナカノ(株)、ＧＤＰ（グリーンダウンプロジェクト）、TOKYO油電力、FoEジャパン

**1－2　公正な社会を作るための活動**

・プロサバンナ事業の問題から、日本のODAの役割について国際協力NGOと協働で調査研究し、情報発信しました。消費者、持続可能な農業の推進の視点から、GRAIN、モザンビークを考える市民の会と連携して、TICAD7サイドイベント「SDGsとアフリカの開発～私たちの暮らしから考える」（8/29)を開催しました。WE21からは理事が登壇し、パームオイルの問題を消費者の視点から伝えました。参加者99名

・2012年から制作していた開発教材「今日はフェアトレードの日！？」が完成しました。制作にあたり、d-lab2019（開発教育協会（DEAR）主催）、TMH研修（横浜NGOネットワーク（YNN)主催）にてワークショップのデモンストレーションを行いました。

よこはま国際フォーラム2020に参加し、教材を使ったワークショップと販売を行いました。

・みらい貯金箱の在庫の減少により、アフガニスタン支援連絡会と協議を行い、今後は支援連絡会が貯金箱を独自で考えていくことになりました。

・日韓の関係改善に向けて、日本、韓国の市民グループに声明を発信しました。合わせて、日韓フォーラム（10/7)をWE21、WE21いずみ、WE21藤沢、WE21相模原との共催で開催しました。

参加者30名

WE21の声明に対し、慶南地域自活センター、ハンサリム生協、浦洲市民連帯から賛同声明をいただくことが出来、市民同士の信頼と連帯を確認しました。

・平和政策チームによる緊急フォーラム「IR整備法ってなぁに ？？　私たちの生活や街がどう変わるの ？？」に広報協力しました。

**1－3　誰もが生きやすい地域社会づくり**

・文化の違いや貧困格差等で生きにくい社会の現状から、誰もが生きやすい地域社会づくりに向けて、多文化共生チームが報告書を作成、報告会を開催する予定でしたが、完成は2020年度になりました。

**2　資源のリユース・リサイクルを推進する環境事業**

持続可能な地球環境をつくるため、資源の有効活用・再資源化を進めます。また、地域循環型社会をめざしてWEショップの価値を高め、寄付文化を大切にする暮らし方を広げます。

【日時】通年

【場所】全国

【従事者人員】20人（理事、事務局、エコものワーキングチーム）

【受益対象者】市民、WE21グループのメンバー

【支出】18,527,876円

**2－1　持続可能な地球環境を作るため、資源の有効活用・再資源化を進めます。**

・廃食油回収「WE油田」などを通じた自然再生エネルギー（電力）への転換を進めます。

2018年度末は9ショップでしたが、今年度継続調査をできませんでした。

　　　総廃食油回収量　3,911kg　　ＣＯ2削減量　10,169ｋｇ

・携帯電話回収「めぐりケータイ」を通じて、鉱物資源のリサイクルをすすめました。主にBGA(ベンゲットグリーンアクション）が鉱山開発跡地の環境回復事業に活用しました。

 回収参加地域数　7地域NPOとWE21　回収数　　199個

・羽毛布団の回収（グリーンダウンプロジェクト）に参加、11月から回収を始めました。古くなった羽毛製品を回収し、リフレッシュ（洗浄）させることで資源の有効活用、ＣＯ2の排出削減を進めます。

　　　回収参加地域　7地域NPO（11ショップ）とWE21

　　　実績　羽毛布団26枚、ベビー布団2枚、枕 大・小各2個、肩掛け2枚、ダウンコート61着

故繊維業者ナカノ(株)によるショップから出るウエスの再資源化として、古布85,990kgを提供し、エコ手袋5,184双を受け取りました。

**2－2　資源の地域内循環を進めるための物流機能の推進**

・WE21グループのリユース・リサイクル事業の要である物流を推進しました。

・WEショップで扱う故繊維やガラス・陶磁器の有効活用を広げ、資源の地域内循環は、現状維持にとどまり、新たな開拓をすることはできませんでした。次年度の課題です。

□エコものセンターの活用

・フードバンクかながわと連携し、フードドライブの拠点として活用しました。

　フードドライブ参加ショップ　9ショップ　280.79ｋｇ

・グリーンダウンプロジェクト(羽毛製品回収）を開始し、回収にはキャリー便を活用して10ショップが参加しています。

・やさしい葬儀社関連グループとの連携を開始し、寄付品をいただきました。

・地域貢献として、「就労支援Ｂ型作業所ホープ大和」に寄付品(ファイバー）を提供しました。協議により、少額ではありますが、経費をいただくこととなりました。

・全国からの寄付品をエコものワーキングチームの協力により、WEショップと「WEフェスタ」の販売に活用しました。　お助けゲット　375　箱　　　　WEフェスタ　180箱

**3　アジアの市民の力を高める民際協力事業**

主にアジア地域を対象として、生活者・市民が主体になる地域開発を進め、顔の見える関係づくりから、信頼と連帯を築きます。またWE21グループ内での情報共有を広げます。

【日時】通年

【場所】フィリピン、韓国、神奈川県

【従事者人員】15人（理事、事務局）

【受益対象者】フィリピン、韓国、日本国内の市民、WE21グループのメンバー

【支出】5,045,385円

**3－1　ネットワークを生かした民際協力の発信**

・TICAD7(アフリカ開発会議）のサイドイベントを、モザンビークを考える市民の会、GRAINの協力を得て、WE21主催で開催することが出来ました。

・(株)マイチケットの主催で、スタディツアー「フィリピンのフェアトレードをめぐる旅」を2月

　実施予定で企画しました。YouTubeを使った広報に努めましたが、最少催行に満たず開催を断念

しました。

・遺贈寄付の受付先として、経験交流プログラムを検討しました。2020年度より具体的な方針を検討していきます。

・12月慶南地域広域自活センター協会を招聘し、これまでの5年間の友好協定を振り返り、互いの地域対地域の交流を目指した新たな友好協定を締結しました。

・5月に民際協力活動一覧を発行しました。共有を行った他、一覧をもとに、大学生ボランティアが、子どもの支援に関するクイズパネルを作成し、イベントでWE21グループの民際協力をアピールしました。

・1月に9年ぶりに改定した民際協力ハンドブックを発行しました。フェアトレード、経験交流等の助成金による支援以外の民際協力に言及したほか、評価シートを活用したWE21らしい評価について、大幅に加筆を行いました。発行に併せて学習会も開催しました。

**3－2　フェアトレード事業の推進**

・プロボノによるマーケティング調査結果をもとに、出口麻紀子さんをアドバイザーとし、販売戦略を立てパッケージの変更を行いました。（三井住友ボランティア基金助成）

・ジンジャーティの商品名を「森育ちのしょうがパウダー」として、より持続可能なパッケージにリニューアルを行いました。商品を分かりやすくアピールする販促チラシも作成し、次年度販売開始の準備を行いました。マーケティング調査の際のプロボノメンバーからの継続支援を受けることができ、関内エリアでの広報、クッキー製造等、販売拡大に向けて活動も行いました。

・地域のフェアトレード団体、大学の学生団体等とともに、フェアトレードマーケットの企画を行いました。会場の関係で今年度の実施が延期となったため、来年度の実施に向けて協議を続けます。関内のカフェ・スペース「泰生ポーチ」にて、ジンジャーティをアピールするイベントを開催しました。高校生や子育て世代等、新しい層へとアピールすることができました。

**4　市民発の情報機能を高める事業、及び、前項1、2、3に関しての広報活動**

WE21グループの活動への共感をより広げるために、37の地域NPOの活動について情報収集し、WE21グループ内での共有と、外に向けたタイムリーで効果的な情報発信に努めます。

【日時】通年

【場所】日本全国

【従事者人員】165人（理事、事務局、ボランティア）

【受益対象者】市民、WE21グループのメンバー

【支出】10,336,300円

**4－1　広報、情報受発信の充実**

・ネット関連情報の充実について現状分析から改善点の抽出を行い、ホームページの一部改訂に着手しました。積上げてきた活動や成果物（＝財産）を整理分析し、時代や取り巻く環境にあった方向性を探る組織診断をパナソニック組織基盤強化助成金取得より開始しました。

・メールマガジンは方向性を確認したものの配信実施に向けた準備が整わず行えませんでした。

・Facebook、ブログ、インスタグラムなどSNSの活用を継続しました。

・WE21の活動を伝えるための広報紙「めぐりめぐる」は年度内発行ができませんでした。

・2018年度年次報告書を7月に発行しました。

・ブランド力を維持するため、WEショップの統一看板の使用推進と商標の管理を行いました。

・ロゴの使用方法について、色や応用またはアレンジなどについていくつかの地域と調整を行いました。

・WEショップの統一看板の使用についてはこうほく大倉山店が付替えを行いました。

・有料イラスト（著作物）の使用について、注意喚起を行いました。

・グループ内共有のため、WE21グループ「みんなのかわら版」を毎月発行しました。3月からは着物フェア情報も毎月発行しました。

・台風19号災害の際に、初めてWE21メーリングリストを緊急災害ツールとして活用しました。

**4－2 　イベントなどによる活動アピール**

・「WEフェスタ」を通じて、WE21グループのチャリティショップ事業、民際協力事業やリメイク活動など、活動全体をアピールしました。

・地域NPOの協力のもと、今年も実行委員会形式で取組みました。
・前年度と同じ会場を活用することで、時間や作業など全体的に効率良く進められました。反面、

　当日ボランティア参加の減少により、配置に必要な人数の確保はかないませんでした。
・出展団体がそれぞれに特徴を生かした参加となり、民際協力を発揮するブースへとなりました。
・横浜美大とリメイクの連携はオリジナルブランドタグ付きエコバックを展示販売するなど新たな

　取組みが好評を得ました。
・フェスタ当日のボランティア協力の他、エコものセンターでの作業は地域から参加したボランテ

　ィアメンバーやエコものワーキングチームの協力に支えられました。
・後援や協賛を依頼する資料を整え、積極的に働きかけました。（横浜市資源循環局や中華街発展

　会協同組合など）

・サマーコンファレンスSDGsPark（横浜青年会議所主催）、戸塚まつり（明治学院大学）、よこはま国際フォーラムなどへ出展しました。

・天候に左右されるイベントも多く、また新型コロナウイルスの影響で開催そのものが中止された企画もありました。（よこはま国際フェスタ、神奈川連盟70周年記念スカウトフェスタ、FoEジャパン「国際シンポジウム 3・11から9年 どう伝える？ 原発事故のこと」）

**5　その他、定款第3条の目的達成に必要な事業**

活動を担う人材の学び・意見交換・交流の場を広げ、多様な世代の参加を広げます。また地域NPOと連帯して組織の活性化を図るとともに、他団体との連携も強め、課題解決力を高めていきます。

【日時】通年

【場所】日本全国

【従事者人員】16人（理事、事務局）

【受益対象者】市民、WE21グループのメンバー

【支出】2,334,159円

**5－1　組織基盤強化**

・認定NPO法人の更新の実態調査を受けました。

5年間の寄付者のデータ整理などに時間を要し、日常での事務作業の大切さを痛感しました。

今後、ITの活用など、確実なデータベース作りが必要です。

・認定NPO法人の寄付控除について情報発信を強化し、寄付や市民の参加を募りました。

ボランティア登録サイト「ACTIVO 」を通じて6地域NPOへボランティアを仲介した他、一般ボランティア、横浜市大の学生等の事務局ボランティアを受け入れました。フィランソロピー協会の紹介で、日本ロレアル、三井住友銀行等企業からのボランティアを受け入れ等、様々なセクターからの参加がありました。

　 今年度寄付者　のべ123名　　　1,650,966円

・会員、寄付者、ボランティアの拡大を通して、WE21の活動の支援者を広げました。

正会員：個人57名、団体39団体・賛助会員：個人27名、団体7団体

　 ボランティア延べ　23名　（企業ボランティア参加5社）

**5－2　この法人の目的にかなう事業を行っている団体に対しての支援事業**

・WE21とWE21グループに属する地域NPOの関係、WE21グループの合意の在り方などを検討しました。結果的には今までの関係性を運営要綱に表すことにとどまりましたが、WE21にとっては、自らの中間支援組織としての活動を見直す機会となりました。

・持続可能な組織運営をめざし、次世代交流カフェを昨年に引き続き、開催しました。カフェではワークショップを行いましたが、その結果のフォローまで行えていないのが課題です。

・地球市民ACTかながわ（TPAK)事務局長伊吾田氏を講師にボランティア・マネージメント研修を開催し、NPOがボランティアを受け入れる目的や心構え、注意点などを学びました。

・HP活用アンケートと、HPの利用者分析の結果をもとに、広報講座を行いました。

・個別の会計の悩みにこたえるNPO会計相談会を開催しました。

・WE21のNPO法人としての基礎知識など、ビジョン・ミッションを学ぶための基礎研修を2回開催しました。

**5－3　他セクターや中間支援組織との連携**

・日本チャリティーショップネットワーク（JCSN）に参加し、チャリティーショップ・フォーラムでの協力、白書づくりアンケートのための学習会を行いました。

・横浜NGOネットワーク（YNN）に参加し「横浜国際フォーラム」、「TMH研修」などを行いました

・参加型システム研究所の研究フォーラム実行委員会に参加しました。

・東日本大震災復興・支援ネットワーク神奈川に参加し、「復興支援まつり2019」に協力、出展しました。

・遺贈寄付相談窓口・市民ネットに参加し、寄付の窓口を広げました。

・大学や、市民団体からの要請で、WE21ジャパンの活動を伝えました。

関東学院大学インタビュー、サステナブル・ブランド・ジャパンインタビュー、國學院大學NPO講座、国際生態学センター市民環境フォーラム、アレセイア湘南高校

**5－4　事務局の充実**

・非常勤事務局が中心の働き方で、いかにコミュニケーションを図るか、またお互いを補い合っていけるかが重要です。今年度は、それぞれの役割を確認するにとどまりました。

・毎月第3火曜に事務局ミーティングを行い、WE21理事会の活動を共有し、意思疎通を図りました。

・コロナウイルス感染防止のため、2020年4月は在宅勤務中心にしました。スタッフ同志の意思疎通を図り、外部からの連絡に対応できるよう電話転送機能やLINEを活用し、在宅での勤務環境を整えました。

・インターン、ボランティア（高校生・大学生・専門学校生・社会人）の参加を募り、今年度は　短期インターン1名、ボランティア23名を受け入れました。

ボランティア参加が増えるに伴い、ボランティアマニュアルなどの整備が必要です。これは次年度の課題です。

・ボランティア情報サイト「Activo」に登録し、ボランティアの参加を募るとともに、WE21グループへのコーディネートを行いました。